

症状マネジメント記録用紙 NO.1 (記入例)

月 日

患者氏名	A 氏	年齢	51才	性別	男・女
病名	右乳癌術後（右定型乳房切除術、腋窩リンパ節郭清術後）				
<p>症状の定義：<u>看護活動その1：症状の定義を明らかにする。</u> ガイドブックP.5の定義を記入し、定義を共有する。</p>					
<p>症状のメカニズムと出現形態：</p> <p style="text-align: center;"><u>看護活動その2：症状のメカニズムと出現形態を理解する。</u></p> <p style="text-align: center;">病気のステージや経過、治療内容についても記入する。 図を用いてもよい</p> <p style="text-align: center;">〔例〕</p> <p style="text-align: center;">A氏のリンパ浮腫は、リンパ節郭清を含む外科的切除（2年前に右定型乳房切除術、腋窩リンパ節郭清術を受けたこと）によるリンパの輸送障害に組織間質内の細胞性蛋白処理能力不全が加わって、高蛋白性の組織間液が貯留した結果、リンパ浮腫が生じている。現在、浮腫のステージはII期である。</p> <p>治療内容 ①術後化学療法中</p>					

症状マネジメント記録用紙 NO. 2 (記入例)

月 日

患者氏名： \_\_\_\_\_

【体験】	【方略】
<p><b>看護活動その3：</b> <b>患者の体験（認知、反応、評価）と意味を理解する</b></p> <p>患者の言葉、看護師が観察したことを記入する</p> <p>【例】 月/日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リンパ浮腫の部位</li> <li>リンパ浮腫の程度</li> <li>どんなふうに浮腫んできたか</li> <li>いつ頃から浮腫んできたか</li> <li>リンパ浮腫がどのくらい長く続くか</li> <li>どのようなときにリンパ浮腫が強くなるか</li> <li>どうするとリンパ浮腫が楽になるか</li> <li>複合的治療は効くか</li> <li>リンパ浮腫の原因をどのように考えているか、どのように説明を受けたか</li> <li>リンパ浮腫のためにできなくなること、困ることはあるか（食事、排泄、睡眠、清潔、移動、心理的变化など）痛みがあるときの患者の表情、姿勢、動作、生理学的な反応（血圧上昇、冷汗、振戦）、血液データなどの観察項目</li> </ul> <p>など</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>分析</p> <p>認知：表現の多さ、言葉の豊かさ、内容の種類</p> <p>評価：症状と原因（疾患・生活行動など）を結びつけて考えているか、症状の強度や増強・軽減因子を評価しているか、複合的治療の効果を評価しているか</p> <p>反応：症状の影響が生活行動に現れているか、症状によって情緒的な変化が起きているか、両者のバランス</p> <p>意味：症状は患者にとって何を意味しているか</p> </div>	<p><b>看護活動その4：</b> <b>症状マネジメントの方略を明らかにする</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>分析：自分が症状マネジメントの主役だと思っているか、症状コントロールの可能性をどのように考えているか（症状はとれるものと考えているか）</p> <p>積極的か、消極的か、目標を持っているか、これまでの体験と関連しているか、症状の機序に矛盾しない方法であるか</p> </div> <p>家族：</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>分析：患者の症状マネジメントに積極的か消極的か、症状マネジメントの目標をどのように考えているか</p> </div> <p>医師：</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>分析：医師の症状に対する評価</p> <p>患者の症状をどのように捉えているか、目標をどこにしているか、積極的にマネジメントしようとしているか、効果的な方法をとっているか（医師の知識、実行力）</p> </div> <p>看護師：</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>分析：看護師の症状に対する評価</p> <p>患者の症状をどのように捉えているか、目標をどこにしているか、症状に関するディスカッションがされているか、積極的にマネジメントしようとしているか、効果的な方法をとっているか</p> </div> <p>その他：薬剤師、ケースワーカーなどの方略 ヘルスケアシステム</p>
<p align="center"><b>【現在の状態】</b></p> <p><b>看護活動その5：体験と方略の結果を明らかにし、セルフケア能力の状態でご該当するレベルを判断する</b></p> <p>症状の状態：症状はコントロールされているか（四肢の周径、患者の知覚、スケールを用いてもよい）</p> <p>機能の状態（PS、ADL評価尺度）：日常生活行動、臓器の機能とその統合性（栄養、脳神経、呼吸、循環機能など）</p> <p>QOLの状態：日常性活の障害、自己価値観の低下、無力感などの情緒の状態（スケールを用いてもよい）</p> <p>セルフケアレベルの状態： レベルⅠ、 レベルⅡ、 レベルⅢ、 レベルⅣ</p>	

症状マネジメント記録用紙 NO. 3 (記入例)

月 日

患者氏名：

【看護師の行う方略を導き出すためのアセスメント】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>潜在的なセルフケア能力も含めて、患者の能力を査定する</li> <li>患者の現在のセルフケアレベル（レベルⅠ、レベルⅡ、レベルⅢ、レベルⅣ）</li> <li>患者が習得すべき必要な知識、必要な技術、必要な看護サポートの方針を立てる</li> </ul>	
看護師の行う方略(計画)	実施と患者の反応
<b>看護活動その6：看護師が提供する知識・技術・サポートの内容を決定し実施する</b>	
( ) さんが習得することが必要な知識 ( ) さんに以下の必要な知識を提供する 【例】 <ul style="list-style-type: none"> <li>症状は患者が主体となってマネジメントしていくものであること（患者の役割、医療者の役割）</li> <li>症状の機序</li> <li>症状を軽減する行動を考えながら生活を保つことを再確認する</li> <li>リンパ浮腫をマネジメントしないことで生じる弊害</li> <li>複合的治療について（スキンケア、ドレナージ、圧迫療法、運動療法、日常生活の注意点）</li> </ul>	実際に実施したことと患者の反応を（経時的に）記入する  【例】 月/日 リンパ浮腫は、早期発見と治療と炎症予防が重症化を防ぐことであり、炎症がおきないようにスキンケアを継続する必要性を説明した。
( ) さんが習得することが必要な技術 ( ) さんに以下の必要な技術を習得してもらう 【例】 <ul style="list-style-type: none"> <li>スキンケアの技術</li> <li>生活の中に取り入れる工夫（患肢を挙上する等）</li> <li>症状を医療者に表現する技術</li> <li>援助が必要ときに頼む技術</li> <li>圧迫療法／リンパドレナージの技術</li> <li>リンパ浮腫を増強させない運動の方法や日常生活上の工夫</li> <li>効果的でない方法、誤った方法の修正。患者が実施しやすいように修正する。</li> </ul>	実際に実施したことと患者の反応を（経時的に）記入する  【例】 月/日 ・複合的治療を、日常生活の中に取り入れる方法を提案した。 月/日 →日常生活の中で皮膚を守るために、寝る前にスキンケアの実施を毎日継続できるようになった。また、就寝時に10-15cm位のクッションを用いて右腕を挙上できるようになった。
( ) さんに必要な看護サポート ( ) さんに以下の必要な看護サポートを提供する 【例】 <ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇さんの症状をとりたいと思っていることを伝える。そのためどのようなことをしているのかを伝える。一緒に対処していく姿勢を示す。</li> <li>〇〇さんの症状がとれるとうれしいことを伝える。</li> <li>表現してくれてよくわかった、表現してくれることでマネジメントの評価がやりやすくなったということを伝える。</li> <li>患者と医療者の協力で効果が出たことを伝える。</li> <li>表現できていることを評価する。</li> <li>患者にマネジメントの能力があることを伝える。</li> <li>自分なりにコントロールしようとしていることを評価する。</li> <li>とっている方略が理にかなっているということを評価する。</li> <li>安楽への援助、日常生活の援助</li> <li>症状のアセスメント</li> <li>気持ちを聴きたいと思っていることを伝える。</li> </ul>	実際に実施したことと患者の反応を（経時的に）記入する  【例】 月/日 ・自分なりに工夫した方略がとれており、メカニズムから考えても効果的な方略であることを伝えた。 →「あれでいいの不安だった。そう言ってもらえると安心した。」
【改善された結果】	
<b>看護活動その7：活動による効果を測定する</b>	
症状の変化： 機能の変化（PS、ADL評価尺度）： QOLの変化： セルフケアレベルの変化：	